

学校教育目標	自分で考える子(知育) 思いやりのある子(徳育) 心も体もたくましい子(体育) 協力し合う子(コミュニケーション)
目指す学校像	笑顔があふれる学校 きれいな学校 安全な学校 信頼される学校
重点目標	1 「できた」「わかった」喜びを味わえる授業実践と確かな学力の定着 2 様々な体験活動や交流活動を通じた豊かな心と健やかな体の育成 3 地域の教育力を生かし、地域・保護者と一体となって協働できる学校運営の推進 4 安全・安心な学校づくりに向け、設備・施設の適切な管理と児童の安全環境の整備 5 教職員一人ひとりが働きがいのある職場環境づくりと教職員の能力向上を図る研修の充実

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標		年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	〈現状〉 ○令和6年度全国学力・学習状況調査では、国語は全国平均とほぼ同様、算数は平均をやや下回る結果である。思考・判断・表現の部分がやや低い結果である。 ○日頃の学習の様子から、基礎的・基本的な事項が身につけていない児童が多い。 〈課題〉 ○学習状況調査の結果分析より、国語は「話す・聞く」「書く」力、記述により自分の考えを表現する力、算数は基礎基本の中で「数と計算」の力の向上が必要である。 ○国語や算数において、基礎的・基本的事項を確実に身に付けていくことが課題である。	「できた」「わかった」喜びを味わえる授業実践	①スタディサプリ、ドリルパークの活用や朝学習の充実により、個別最適な学習スタイルを進める。 ②児童の学力を向上させるために教科担任制を全学年で実施し、系統性を踏まえた指導や多様な学びを実現する。 ③算数の授業を中心に教員を複数配置し、少人数指導または個別指導を実施する。	①スタディサプリ・ドリルパークを各単元で1回以上利用できたか。 ②教科担任制を全学年で実施し、全教員によって全校児童を指導する。 ③算数科における少人数指導、ティームティーチングを実施し、学習状況調査での知識・技能に関する正答率が70%以上となったか。	①全校児童がスタディサプリ、ドリルパークを各単元の授業内で使用し、個々の進度に応じた学習を進められた。 ②全学年による教科担任制が機能し、全教員で全校児童を指導する体制が整った。 ③算数科でティームティーチングを行い、複数の目で支援することができた。知識・技能の正答率は60%であった。	A	①児童の学力向上のために基礎的内容の定着を図る。 【方策】教科担任制を生かし、時間割の工夫やSAの活用で複数体制での算数授業の実施で基礎的な理解を向上させる ②ICTの効果的な活用により児童の学習意欲や学習理解度の向上を目指し、個別最適化を図る。 【方策】教職員への研修の充実と研究授業の全員実施、相互参観による指導法の共有化、授業力向上を図る。
		自ら学ぶ意欲の育成	①自分で学習する習慣を身に付けさせるために発達段階に応じて、家庭学習の行い方を定着させる。 ②ICTの効果的な活用により、個別最適な学びと協働的な学びを両輪とした授業展開を実現させる。 ③自己有用感を育むために、ほめ、認め、励ます指導を行う。	①児童アンケート「家庭学習について」項目のB評価が20%台に下がったか。 ②年間に1回以上、タブレット端末を使った授業を公開したか。 ③保護者アンケート「児童の悩みやトラブルに適切に対応しているか」項目の肯定的評価が70%になったか。	①児童アンケートの「家庭学習」の項目のB評価は26%と20%台になった。 ②全職員がICTを活用した授業を1回以上公開し、教員間で協議・検討した。 ③保護者アンケート「悩みやトラブルに適切に対応しているか」項目肯定的評価は84%であった。	A	①宿題から家庭学習へと意識の変革を行う。 【方策】自主学習の手引きの児童への周知、自主学習タイムの活用、テスト日程の早目の周知による予告
2	〈現状〉 ○単学級でクラス替えがないために普段の人間関係は変化がなく、自分の状況が変わらないままそれが普通に感じている。 〈課題〉 ○固定化された人間関係の中で生活しているため、様々な人と関わる機会を作りたい。 ○今年度は特別支援学級が設置されたため、学校としての支援体制や交流活動体制の確立と特別な配慮を要する児童へのさらなる個別支援・個に応じた指導が必要である。	豊かな心の育成	①規律ある態度を育成するため「心を潤す4つの言葉・心を元気にする4つの言葉」を意識させる。 ②児童同士の深いかかわりを構築するため、縦割り活動を集会以外でも清掃等様々な場面で機能させて実施する。 ③他者尊重の気持ちを醸成するために、支援学級児童と交流する機会を設けたり、フレンドリータイムを実施したりする。 ④命の大切さや豊かな心の醸成のため、花や生き物とふれあう活動を取り入れる。	①児童アンケート「友達を思いやり、仲よく助け合っている」項目の肯定的評価が85%以上であるか。 ②縦割り清掃を1年間計画的に実施できたか。実施率90%以上 ③縦割り活動(フレンドリータイム)を計画通り実施できたか。 ④季節ごとに校内の花草がきれいに植え替えられているか。	①児童アンケート「友達を思いやり、仲よく助け合っている」項目の肯定的評価が92%であった。 ②縦割り清掃を1年間計画的に実施できたか。実施率はほぼ100%であった。 ③縦割り活動(フレンドリータイム)を計画通り実施できた。 ④季節ごとに校内の花草がきれいに植え替えられ、人権の花運動の花、ひまわりプロジェクトの花も合わせ環境づくりを行った。	A	①河合小の約束の徹底や児童同士のより良い関係の構築を図る。 【方策】あいさつ運動の多様な方法での実施と縦割り活動の活発化により全校児童のよりよい関係作りを更に進める。 ②個に応じた対応や配慮を要する児童を大切に指導の充実を図る。 【方策】個別支援の対応ができる組織作りと教職員による組織的対応、スクールダッシュボードの活用方法の検討。
		健やかな体の育成	①健やかな体を育成するために、わんぱくタイム、フリータイムを実施する。 ②健康な体と心を育むため、食育や保健教育を充実させる。	①わんぱくタイムを年間計画通りに実施できたか。 ②食育に関する取組を年3回、また学校保健委員会の開催と動画配信が実施できたか。	①児童アンケート「食育に関する取組を年3回、また学校保健委員会の開催と動画配信が実施できたか。」項目の肯定的評価が90%以上であったか。 ②食育に関する取組を実施した。学校保健委員会は睡眠について開催し、動画配信も行った。	A	①外に出て体を動かし、人と関わることの楽しさを感じさせる。 【方策】運動委員会によるキャンペーンの実施、学級遊びの実施
3	〈現状〉 ○学校運営協議会において、熟議により本校の重点指導項目(あいさつの励行、規範意識の醸成等)を共有し、本年度の学校経営方針に取り入れた。また、熟議もテーマを継続して話し合いを続けている。 〈課題〉 ○学校運営協議会で共有したテーマを地域・家庭等に周知し、協働的な取組を実施する。 ○学校・地域・家庭の意見をバランスよく取り入れ、熟議を行っていく。	地域・保護者と一体となった学校	①熟議を元に協働活動を行うために委員を再考し、運営協議会を年3回開催する。 ②学校だより等をHPやスクリーンへの配信により確実な情報共有を行う。行事の直接公開、動画や写真などでの公開を含め積極的な情報発信をする。	①学校運営協議会を年間3回実施し、協働的な活動を決めることができたか。 ②スクリーンによる手紙配信を95%以上行えたか。	①学校運営協議会を年間3回実施し、協働的な活動を決め(児童による地区体育祭運営補助、児童預かり等)実施することができた。 ②スクリーンによる手紙配信をほぼ100%実施することで、適時適切な情報発信を行った。	A	①地域の行事等を通して、地域・保護者と児童が関わりを持ち、顔見知りになる。 【方策】地域のイベントへの児童参加呼びかけ、運営への参加、学校運営協議会への児童の参加
		地域の教育資源を生かした教育活動の推進	①米作り体験、自然観察など地域での体験学習を行い、郷土を愛する心を育む。 ②児童の学習効果を高めるため、学習ボランティアを活用する。	①地域での体験活動を計画通りに実施できたか。 ②学習ボランティアを2回以上募集したか。	①地域での体験活動(田植え、稲刈り、赤坂沼探検)を計画通りに体験できた。 ②学習ボランティア等を募集し、授業や学校運営に協力してもらうことができた。(4回)	A	①地域の教育力を生かし、児童の教育の充実を図る。【方策】学習内容にあった必要な学習ボランティア、地域の講師等の有効的な活用方法を検討し、再度計画を立てる。
4	〈現状〉 ○保護者による学校評価で「学校は児童の事故防止に努め、施設・設備の安全に配慮している」で肯定的回答が、87%であった。 ○児童の通学路は、交通量が多いうえに幅が細い歩道も多く、危険な場所を登下校している。 〈課題〉 ○施設・設備の老朽化が進んでいるため、計画的な修繕・保守が必要である。 ○関係機関等への要望をあげ、連携して安全対策を行っていく必要がある。	設備・施設の適切な管理	①計画的な予算執行と予算執行状況確認をする。 ②安全点検の確実な実施と修繕等の即時対応により施設の維持管理をする。 ③きれいな学校の実現のため、清掃活動を充実させ、廊下、教室、職員室内の整理整頓を行う。	①月に1回以上予算執行状況を確認したか。 ②学校評価(保護者)「学校では～施設・設備の安全に配慮している」項目の肯定的評価の割合が80%以上となったか。 ③教職員による評価「清掃活動を徹底し、清潔で整頓された教育環境を維持している」項目の肯定的評価の割合が70%以上となったか。	①月に1回以上事務職員より予算執行状況の報告があった。 ②学校評価(保護者)「学校では～施設・設備の安全に配慮している」項目肯定的評価の割合が90%であった。 ③教職員による評価「清掃活動を徹底し、清潔で整頓された教育環境を維持している」項目の肯定的評価の割合が83%であった。	A	①学校施設の危険箇所を確認し、適時適切な安全対策をすることで児童の安全を守る。 【方策】安全点検実施後の修繕改善の徹底修繕への学校予算の適切な執行、PTAによる環境整備費の適切な執行と学校との連絡体制の構築と徹底
		児童の安全環境の整備	①家庭・地域からの要望を受け、関係機関との連携によって、通学路の安全対策を進める。	①要望した通学路の安全対策を2か所以上実現する。	①要望した通学路の安全対策を5か所(グリーンベルト、外側線、ラバーボール、停止線、とびたくん)を実現させた。	A	①児童の安全を守る体制作りを行う。 【方策】学校安全NW、保護者地区委員との連携による学区内安全状況の把握
5	〈現状〉 ○教職員一人ひとりがICTを研修、活用し業務の効率化ができるようになると共に授業でいかせるようになってきた。 ○日課や学校行事の見直しを行ってきたことで、ゆとりをもった教育活動を計画できている。 〈課題〉 ○教職員数が少なく、一人ひとりが担当する校務分掌の数が多く、更なる業務効率化を行い、教材研究の時間を確保し、児童の学力向上へとつなげていくことが課題である。	教職員の指導力向上	①「学びの指標」を意識した授業を実施し、一人ひとりに目標を設定させる。 ②河合小スタンダードにより、共通行動に関する全職員による共通指導を行う。 ③個別最適な学びによる研究授業を1人1回行うため、ICT活用研修を実施する。	①学びの指標の数値が1回目より2回目の方が数値のあがる教職員が60%以上いたか。 ②生徒指導委員会を毎月実施し、情報共有を生じたか。 ③年間に3回以上、ICT活用についての校内研修を実施できたか。	①学びの指標の数値が1回目より2回目の方が数値のあがる教職員が60%以下であった。 ②生徒指導委員会を毎月実施し、情報共有し、いじめに関する組織的対応の仕組みを構築した。 ③年間に5回ICT活用研修を実施し、授業や校務に生かす土台を作った。	A	①授業でのICTのより効果的な活用により児童の学習意欲や学習理解度の向上を目指す。                     【方策】教職員による学校全体の研修の充実と全職員の研究授業実施、相互参観による授業力向上を図る。
		働き方改革	①教職員間の風通しの良い人間関係を醸成する。 ②人事評価面談や人事調査提出時にキャリアアップについて話し合う。 ③時間を意識した業務を行えるようにするため、校務の効率化を図ると共に時間外在校時間を毎月周知する。	①教職員アンケート「共通理解・共通行動」項目の肯定的評価が60%以上になったか。 ②自己評価面談や人事調査提出時に今後のキャリアについて職員に話されたか。 ③時間外在校時間45時間以下の職員を全体の60%以上にできたか。	①教職員アンケート「共通理解・共通行動」項目の肯定的評価が83%であった。 ②自己評価面談や人事調査提出時に良さや特徴、混合の方向性、キャリアについて話をした。 ③時間外在校時間45時間以下の職員は全体の87%であった。	A	①職員の時間外在校時間の減少と適切な管理を実施する。 【方策】ICTの授業・校務への更なる活用(AIの活用)業務内容の振り返りの徹底と業務改善委員会の実施

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達やサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校運営協議会による評価  
 実施日：令和8年2月5日  
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等

・全学年での教科担任制が機能し、全教員で全校児童を指導する体制が整い、今後の効果に期待できる。  
 ・宿題から家庭学習・自主学習への変革は家庭と連携を図り、保護者の協力を得て行っていく必要がある。  
 ・タブレットが新しくなることもあるため、ICTの活用についてPTAでも充実した環境整備に協力していきたい。

・あいさつは、元気よくしてくれている。  
 ・少人数の強みを生かした縦割り活動は、思いやりや助け合う心を育てるよい機会であるため、さらに充実させてほしい。  
 ・花や生き物と触れあうことや心に栄養を与える読書活動が充実している。校内音楽会等児童が称賛される場を持ち続けてほしい。

・地域の特色を生かした米作りや自然観察等の体験など地域とのつながりを生かした教育活動を充実させてほしい。  
 ・地域の行事に積極的に参加し、地域の人と顔見知りになってほしい。地域の顔の見える関係作りを続けていきたい。

・通学路の安全対策については、今年度たくさん調整いただき、保護者として感謝している。  
 ・道路が狭く、交通量の多い場所があるため、防犯ボランティアがもっと増えるとよい。  
 ・清掃が行き届いていて、掲示物などの環境もよい。

・小規模校で教職員が少ないため、校務分掌による負担が多くなる。業務効率化と教職員の共通理解・共通行動で教材研究時間を確保するという方向性を示せてほしい。  
 ・全教職員による研究授業の相互参観で授業力向上を図ろうとしているが、効果的であると考える。  
 ・教職員のスキルアップは重要だが、自身の心身の管理も大切だと思う。